

令和6年度研修の成果と課題と令和7年度の研修に向けて

1 実施研修会とアンケート

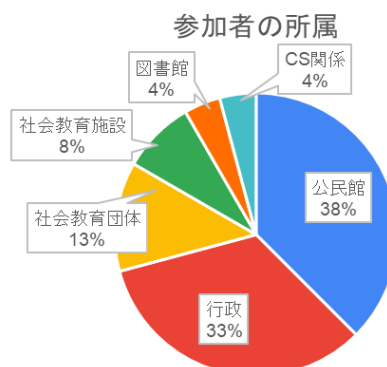
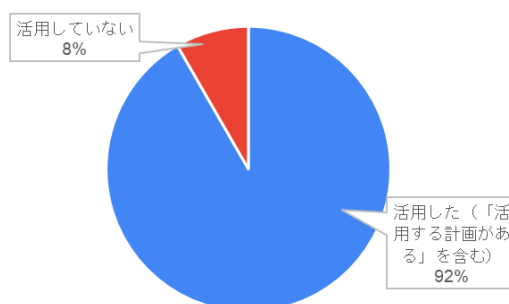
令和6年度、県立生涯学習推進センターでは、社会教育関係職員等研修会、地域学校協働活動研修会、家庭教育研修会、ICT研修会の4つの研修会を実施した。受講者全員に次のようなアンケートを依頼し以下の回答を得た。

- (1) アンケート名： 成果活用アンケート
- (2) 目的： 受講者が研修会で学んだことをどのように、職場や地域、家庭、日常生活等で活用しているかを把握するため
- (3) 実施対象： 受講者 331 人（延べ 752 人）
 - 社会教育関係職員等研修会・・・81 人（延べ 133 人）
 - 地域学校協働活動研修会・・・116 人（延べ 192 人）
 - 家庭教育研修会・・・81 人（延べ 233 人）
 - ICT 研修会・・・53 人（延べ 194 人）
- (4) 実施時期： 令和6年12月中旬～下旬
- (5) 内容： ① 研修会で学んだことや身に付けた知識・技能、経験の活用の有無
② 活用した活動内容
③ 活用していない理由
④ 学んだ成果を活用していくために、どんな研修や講座があればよいか

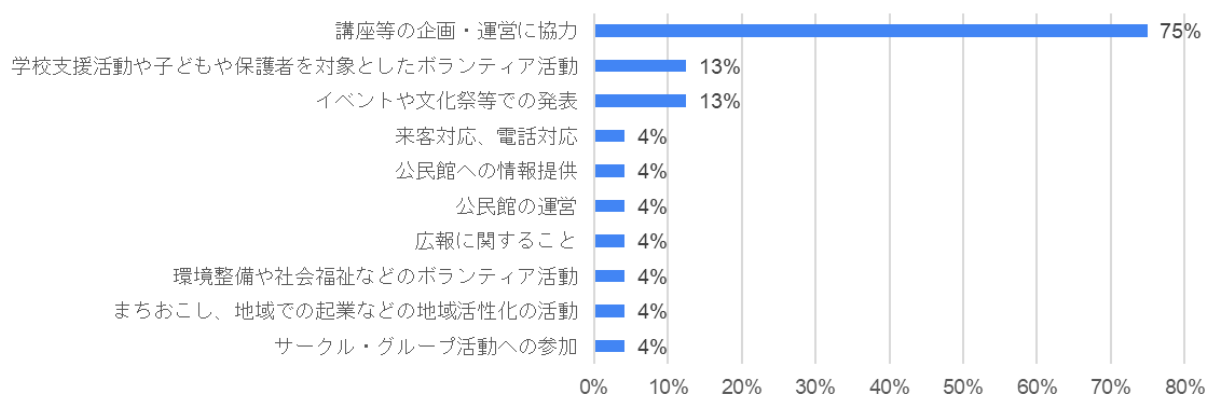
2 社会教育関係職員等研修会

(1) アンケート結果（回答率 30%）

研修会で学んだことや生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験を、この1年間程度の間で、地域社会で活用していますか。



活動内容（複数回答）



(2) 成 果

- ・研修内容を「活用した」と回答した割合は92%であった。
- ・「講座等の企画・運営」で活用したとの回答が最も多く、75%に上った。所属別では公民館や社会教育行政の職員が多く、研修後、実務で活用できたと考えられる。このことから、受講者は、本研修会を通して、「生涯学習の推進」に不可欠な知識や技能を身に付けることができたと考えられる。

(3) 課 題

- ・研修内容を活用できなかった理由として、「活用するレベルに達していない」という回答があった。チラシやコミュニケーションに関わる研修を行ったがあまり活用されなかった。研修内容が受講者の確かな学びへと繋がるよう活用場面や手順をより具体的にスモールステップで示す必要がある。
- ・「現代における生涯学習を学びたい」「多様性やジェンダーについての研修を開いてほしい」「演習を充実させてほしい」という要望があった。受講者の要望を取り入れた研修内容を検討していく。

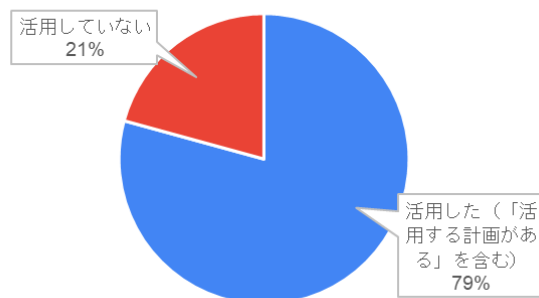
(4) 次年度に向けて

- ・スキルアップコースのテーマを「共生社会」とする。障がい者や高齢者、若者等の視点に立った「生涯学習」と「地域づくり」について学び、共生社会の実現に向けて必要な知識と技能を養う。
- ・研修内容を実務につなげるために、演習に重点を置いた研修会を行う。

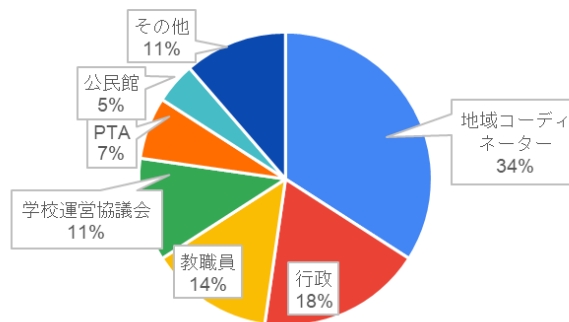
3 地域学校協働活動研修会

(1) アンケート結果（回答率 46%）

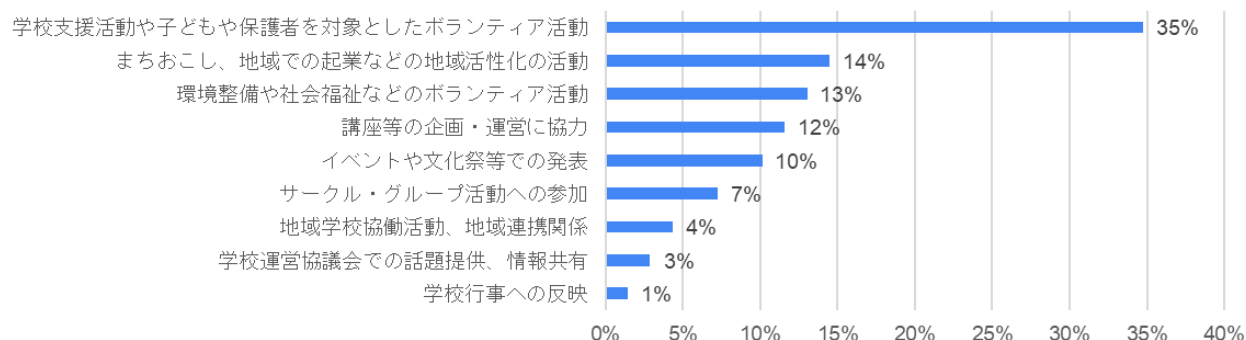
研修会で学んだことや生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験を、この1年間程度の間で、地域社会で活用していますか。



参加者の所属



活動内容（複数回答）



(2) 成 果

- ・研修会で学んだことを「活用した」と回答した割合が79%であった。
- ・活用した活動内容は、「学校支援活動や子ども保護者を対象としたボランティア活動」「まちおこし、地域での起業などの地域活性化の活動」「講座等の企画・運営に協力」「イベントや文化祭等での発表」「サークル・グループ活動への参加」と多岐にわたった。受講者が研修会後の活用をそれぞれの地域の実情に合わせて行ったといえる。

(3) 課 題

- ・活用できなかった理由として、「活動を行う意欲はあるが、やり方・方法等の情報がない」「まだ活動できるレベルに達していない」「仕事や家庭の都合で時間がとれない」などが挙げられた。市町村の活動事例を紹介したり参加者同士の情報交換の場を設定したりする。

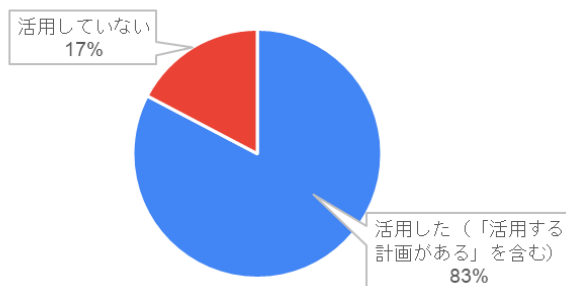
(4) 次年度に向けて

- ・事例発表や受講者同士の情報交換の時間を十分にとった内容とし、受講者の活用につなげる。
- ・オンライン研修会、対面研修会、サテライト会場等、研修方法を工夫する。
- ・受講者が参加しやすい研修時期、内容、時間を設定する。また、開会から閉会までを短時間で効率のよい運営にする。

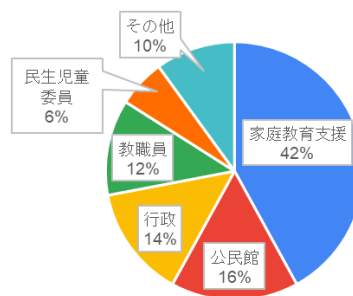
4 家庭教育研修会

(1) アンケート結果（回答率 62%）

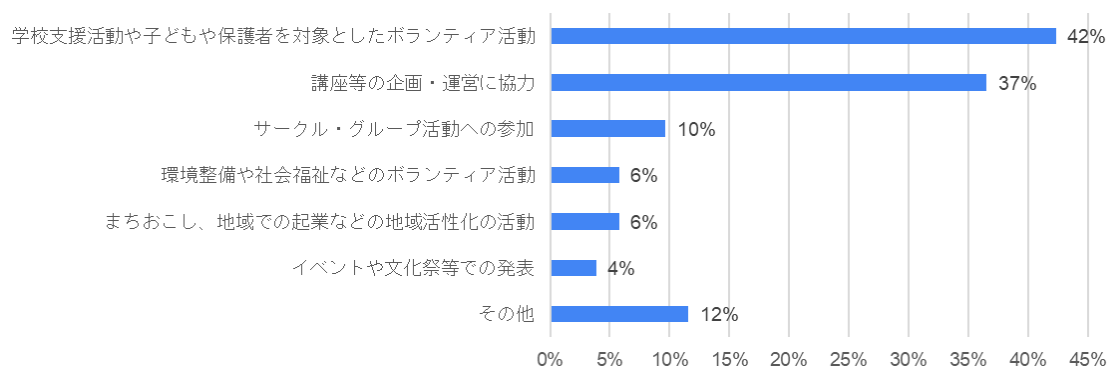
研修会で学んだことや生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験を、この1年間程度の間で、地域社会で活用していますか。



参加者の所属



活動内容（複数回答）



(2) 成 果

- ・研修内容を「活用した」と回答した割合は83%であった。
- ・「学校支援活動や子どもや保護者を対象としたボランティア活動」が42%、「講座等の企画・運営に協力」が37%であり、大半を占めた。このことから、本研修が、受講者の実務に直結する内容で、地域における家庭教育支援につながったと考えられる。

(3) 課 題

- ・研修内容を活用できなかった理由として、「活用するレベルに達していない」という回答があった。また、「社会問題、虐待、障がいについて共通認識をきちんと共有したい」という記述があった。家庭が抱える現代的な課題について研修を充実させていく。

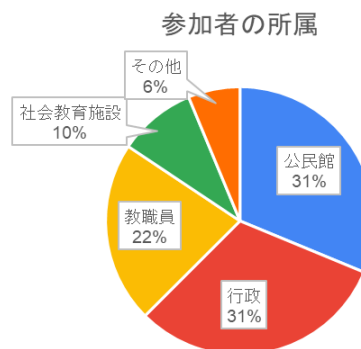
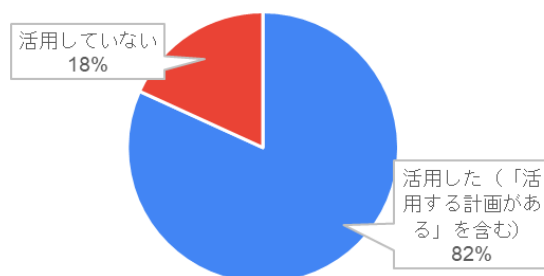
(4) 次年度に向けて

- ・研修会での学びのさらなる活用に向けて、スマホ依存やネット依存、発達障がい等の実践的なテーマを取り上げる。

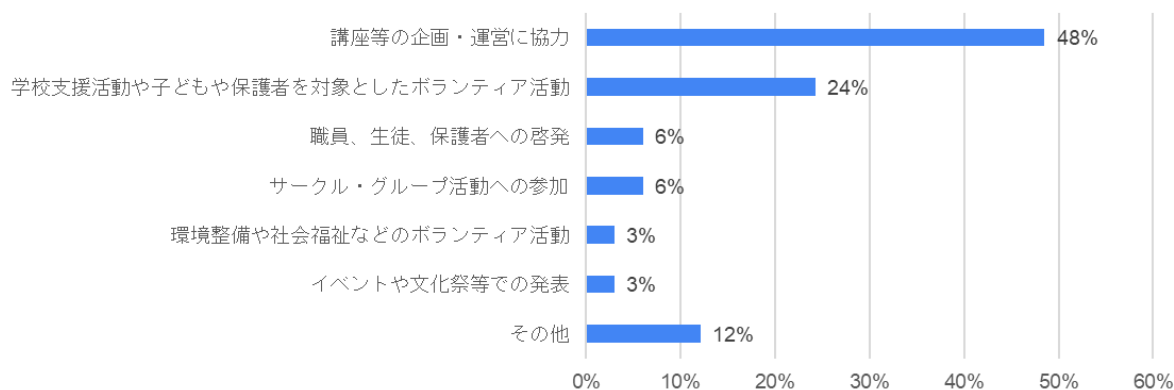
5 ICT 研修会

(1) アンケート結果（回答 62%）

研修会で学んだことや生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験を、この1年間程度の間で、地域社会で活用していますか。



活動内容（複数回答）



(2) 成 果

- ・研修内容を「活用した」と回答した割合は 82%であった。
- ・「講座等の企画・運営に協力」が半数を占めた。Zoom 研修や生成 AI 研修の内容が受講者の実務に直結したといえる。

(3) 課 題

- ・研修内容を活用できなかった理由として、「活動を行う意欲はあるが、やり方・方法等の情報がない」「活用するレベルに達していない」という回答があった。アンケート結果から、「基礎の基礎を学びたい」という意見があった。当日の研修内容の充実はもちろんのこと、受講者が事後に自主研修を行える支援体制を整えていく。

(4) 次年度に向けて

- ・情報社会は日々更新されている。最新の情報を収集し、受講者に提供していく。
- ・研修内容を見直すための資料の提供、受講者の活用場面でのフォローアップ等のサポートを行う。

担当 鈴木 昭俊